

同援だより

2012年 盛夏号

<http://www.doen.jp/>



社会保障はどうなる

常務理事 菅原 真廣



先般、平成二十三年度の事業報告及び決算報告が役員会で承認されました。おかげさまで、各施設、各事業がおおむね初期の目標を達成することができました。関係各位と職員の皆様に心より感謝申し上げます。

昨年度は、引き続き職員の処遇改善に努めたほかに、老朽化した建物・設備の改築・改修に力を入れたため、収支差額が前年度をかなり下回るという結果になりました。これは、利用者の安全・安心を確保し、質の良いサービスを提供するために欠かせない支出であったと思います。

当法人においては老朽化した施設が多く、今後の改築に備えて、適切な資金計画を立てて取り組んでいく予定です。

国においては、「社会保障と税の一体改革」の議論が開始されています。消費税の話ばかり取り上げられていますが、年金制度における最低保障年金や年金一元化、総合子ども園の創設などの子育て制度、障害者総合支援法の行方などが論点となっています。

また今後は、介護保険法の改正や後期高齢者医療制度の見直しなどが議論の俎上に上る予定です。消費税の議論はもちろん大事ですが、政局の話に飲み込まれないよう、社会保障部分のしっかりとした議論を期待します。

今年も暑い夏がやってきます。原子力発電所の再稼動の行方は不透明ですが、それに左右されず、当法人としては利用者サービスを低下させることなく、節電対策にしつかり取り組み、この夏を乗り切って行きたいと思います。

仮称「原町高齢者複合施設」建設について

(旧原町福祉事務所跡地の活用による介護基盤等整備について)

(仮称)原町高齢者複合施設開設準備室長 佐々木 末廣

【1】仮称「原町高齢者複合施設」建設の経緯

本会は、旧原町福祉事務所跡地(新宿区原町三一八十四)において新宿区と建物無償貸付契約を取り交わし、原町高齢者在宅サービスセンター、新宿区複合高齢者総合相談センターを運営してきたところです。

しかし、旧原町福祉事務所ビルは築四十二年を経過し老朽化が進んでおりまして、耐震基準も満たしてないことから安全面での不安を抱えておりました。

一方で小規模多機能居宅介護など介護基盤を整備することが地域の喫緊の課題となっております。

以上のことから、新宿区とともに旧原町福祉事務所跡地を活用して地域の介護基盤等の整備に資するため、仮称「原町高齢者複合施設」の建設を推進しているところです。

【2】建設の目的

ここで、建設の目的をお示しますと、今日の高齢者福祉の大きな課題で

ある在宅福祉を支えるサービスを複合的に構成し、システムとして提供して行こうというものです。とりわけ地域交流スペースは、これまで原町ホームが先進的に八年間実施して参りました地域の高齢者と原町ホームご利用者の手芸・華道・書道・リハビリを通じた「ほえみ交流事業」(都市型逆ディサービス)の発展型として高齢者のための多様な地域交流の拠点として整備するものです。

②認知症対応型デイサービス(二階)
現在、原町高齢者在宅サービスセンターで実施しております認知症対応型デイサービスを提供して参ります。

③地域交流スペースの設置(階)
高齢者のための多様な地域交流の拠点として地域交流スペースを確保します。

【3】建設の内容

- ①小規模多機能居宅介護(二階)と認知症高齢者グループホームの整備
(三階、四階)

そこで認知症対応グループホーム及び小規模多機能居宅介護を併せて設置し、地域の要望に応える内容となっております。家庭的な雰囲気の中でその人らしい老後を過ごす住まいとして、認知症高齢者のトータルな精神と行動の安定を得て、認知症高齢者を抱えるご家族が安心して預けられるグループホーム(規模二單

位十八名)を目指して参ります。また、併せて、「通い(デイサービス十五名以下)」と、要介護者の様態や希望に応じて、随時「訪問介護」や「泊まり

(五名以下)」を組み合わせてサービスを提供する小規模多機能居宅介護の特性を活かした介護環境を提供して参ります。

④認知症対応型デイサービス(二階)
現在、原町高齢者福祉サービスセンターで実施しております認知症対応型デイサービスを提供して参ります。

地域の高齢者と施設利用者との「ほえみ交流事業」を通じて、常に地域の福祉力を高めるよう努力して参りました。

原町ホームにおいては、かねてより地域の高齢者と施設利用者との「ほえみ交流事業」を通じて、常に地域の福祉力を高めるよう努力して参りました。

これからもより一層、ご利用者が地域の住民であることを誇りにされるよう高齢者福祉のシステムとしてのサービス提供に心がけ、超高齢社会にふさわしい事業として参ります。

現在基礎工事を行っているところです。(写真一)公園側から見た完成した時の予想図です。(写真二)

(写真一)



(写真二)



昭和郷第二保育園改築に向けた 園長 折居 千恵子

念である「愛・夢・未来を創造する広場」をもとにした建築の基本方針は次の通りです。

東日本大震災から早一年が経ちました。あの時の衝撃と危機感は、未だに鮮明です。被災地の復興に向けて各機関で努力されているところで、当園も災害時の事業継続を確実なものにしておくことが大切と考えます。

当園は済美高等洋裁学院を増設し、昭和五十二年に開園しました。築四十六年が経つ建物は施設設備が老朽化し不具合が生じております。

昨年の東日本大震災の状況に鑑み、建物強度や省エネルギー対策、防災の面からも建て替えを行うこととなりました。

この事により、何よりも耐震性の向上と待機児解消のための定員拡大を図ることが出来ます。

春まだ浅き晴天の吉日、地鎮祭を行い、平成二十四年十二月の竣工に向けて保育園の改築工事が始まりました。場所は昭和郷内、正面のオープンスペース前で当園の分園と同敷地です。

保育園という施設は、これから大人になっていく子ども達の施設です。未来を担う子ども達のことを考えた施設づくりが必要です。保育園の理

『五、子ども達の未来を考えた地球上に優しい施設づくり』

太陽光パネルを設置し自然エネルギーの有効利用と屋上庭園など建物の遮熱効果を持たせるとともに地球温暖化の防止に努めます。

『一、子ども達にとって安心・安全な施設づくり』

耐震性も高く、安全を意識した設計や材料の選定を行います。

『二、子ども達にとって快適な施設づくり』

保育室は南向きに配置し、高天井とハイサッシを設け多くの採光・通風を確保し開放的な空間を考慮した快適な生活環境を作ります。

『三、子どもたちや保護者・職員が使いやすい機能的な施設づくり』

園内の配置や設備機器、造作家具は利用する人に合わせた使いやすいものを設置します。

『四、子ども達が喜ぶ楽しい施設づくり』

「森を創る」をコンセプトとしたオリジナルナリティーある施設。カラーガラスやガラスブロックを使用した見た目に楽しい外観デザイン、そしてお話しコーナーや階段下を利用した遊びスペースを設置します。渡り廊下も森の遊び場です。

私達は高度成長期以降、便利さを追求してきました。手を出せば水が流れ、部屋に入れば電気がつく。自ら身体を動かし筋肉を使わなくても自動で何でもしてくれる。それは子どもの育つ環境として「不自由」な環境とも言えます。

新園舎は、子ども達が自ら動くことによって学べる建物にしたいと考えています。

「子どもは遊ぶことが仕事です。そして遊びから学びます。」子ども達には将来、新しい世界を築いていく欲しい。保育園での実体験を大切にした教育は、そのための土台作りです。この昭和郷という老若男女が集つている環境を大切にしながら、地域の皆様にとって利用しやすい保育園作りに職員が一丸となつて取り組みます。

そして子ども達と一緒に旧園舎との名残を惜しみながら、新園舎の建築を楽しみに見守っていきたいと思います。利用者の皆様、地域の皆様の安全を第一に工事を進めてまいります。

今後も皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



「愛・夢・未来を創造する広場」

地鎮祭

同 権 だ よ り

昭島市児童センター「ぱれっと」

(つつじが丘北学童クラブ併設)

本年四月一日から昭島市より運営管理を受託しました。このことにより、法人として昭島市内の児童福祉の向上に寄与するとともに、新たな種類の施設運営に携わることによる本法人職員の資質向上を図ることができます。

施設は、つつじが丘保育園近くの昭島市つつじが丘二一三一二十に所在し、鉄筋コンクリート二階建て延面積は一、三九五m²、一階の一部が学童クラブになっています。

六月一日現在、南山館長(兼務)以下、児童センターに十二名、学童クラブに五名の児童厚生員等の職員が配置され、子どもたちが安心して過ごせる場を提供し、健康で情操豊かな育成を目指して奮闘しています。

児童センター「ぱれっと」は、保護者が同伴する乳幼児から十八歳未満までの青少年が自由に来て、遊び、楽しみ、交流できる場で、入館は無料です。



開館時間は、午前九時三十分から午後九時ですが、小学生は午後六時まで、中学生は午後八時までです。

「ぱれっと」には、ボール遊びや球など体を使った遊びができる小体育館のような遊戯室。人生ゲームやドミノで遊んだり、お弁当やおやつを食べながらくつろげる交流室、音量の関係で自宅では難しい音楽(バンド)練習や録音ができる音楽スタジオ。(利用対象者は、「ぱ

たーで借りられるものもあり、気軽に立ち寄って、遊んだり、おしゃべりができる子どもたちの施設です。

また毎月、ボランティアスタッフの小・中学生が行っている、鉄道模型Nゲージの展示・運転ができる「一緒にNゲージ」、乳幼児と保護者を対象に音楽を使った「みんなあつまれ!リトミック」や「音timeどれみ」、持込みおもちゃの修理を行う「おもちゃ病院」など多彩な行事を行っています。

児童センター「ぱれっと」は、保護者が同伴する乳幼児から十八歳未満までの青少年が自由に来て、遊び、楽しみ、交流できる場で、入館は無料です。

れつと」が行う『音楽スタジオ利用者講習会』を受けた中・高校生にあります。(育児サークルや子ども会の集まり等ができる集会室。小・中・高校生が使えるコンピュータ室。簡単な調理や工作などのプログラム活動を行う工作調理室。リラックスして読書を楽しんだり、学習ができる図書室。その他に幼児プレイコーナー・ロビー・ラウンジ・オープンデッキなどが備えられています。

ゲームやおもちゃなどは児童センターで借りられるものもあり、気軽に立ち寄って、遊んだり、おしゃべりができる子どもたちの施設です。

保護者が働いていたり、病気などで放課後や夏休みなどに家庭で保護育成できない小学一年生(障がいのある児童で継続の場合は四年生まで)の児童を対象に、学童クラブの特徴を活かしながら、遊びや安全管理・生活指導を行っています。同時に、異なる年齢の子どもたちとも交流することで、子どもたちの健全育成を図ることを目的としています。

開館時間は、学校がある日は下校時から午後六時まで、学校休業日と土曜日は午前八時三十分から午後六時までです。また、登録制で前後に三十分の時間延長があります。



退任挨拶

「サンホームの思い出」



サンホーム
元園長 豊野 秀一

昭和五十九年八月一日、私が初めて園長として着任したのは、老人福祉法が施行された昭和三十八年開設のサンホームでした。このサンホームで、園長として三回勤めさせていただきましたので、その思い出を綴らせていただきます。

当時のサンホームは、たくさんの木々に囲まれた緑豊かな環境で、時折、孔雀小屋から孔雀の鳴き声が聞こえてくるというところでした。約九千坪という広大な敷地に管理棟や居住棟など三棟の建物があり、百名のお年寄りが生活していました。ほとんどが個室であつたため、一棟の長さが七十m以上もあり、昔ながらの長屋のイメージにぴたりの愛着の持てる造りでした。

そこで私の仕事の一つとして、建物管理の名目で大工道具を携えて各居室を回り建具の修理をしていたことが、懐かしく思い出されます。ただ直

すのではなく、訪室した先のお年寄りとの会話を通して、色々な情報を得て施設運営に役立たせていただきました。

また、居室から一步外に出れば、目の前に花壇があり、四季折々の花が咲いていました。お年寄りの方々が丹精込めて咲かせた花をめでながら会話を深めると同時に多くのことを学ばせていただきました。

兎にも角にも、敷地内は種々の花卉や樹木に彩られ、非常に落ち着いた雰囲気が漂っていました。お年寄りの皆様も大層穏やかで、新米施設長の私を励まし育てていただいたことを胸に刻みながら、三年三ヶ月の間勤めさせていただきました。

次は、平成七年四月から一年二ヶ月の間で、改築の準備期間中で利用者の減員を進めていた時でした。平成十年四月の新施設の竣工を待たずに異動したことが心残りでした。

三度目は、平成二十二年四月から今年の三月まででした。改築され、定員が五十名となつた居室は機密性が高く、快適でプライバシーがしっかりと守られた構造になつていきました。十四年間のプランクを経て、ほとんどのお年寄りが初対面という中で、新たな信頼関係を築き上げると同時に改めて多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。

そのためには、情報はできる限りオープンにすること、組織の風通しを

最後になりますが、三回のサンホームでの勤務を通して出会えたお年寄りの皆様、そして職員の皆様に心より御礼を申し上げます。そして、サンホームが、そこで暮らすお年寄りの皆様の安心と安全を守り、地域に根ざした施設としての使命を果たしていくだけないと願っています。

また、今後の法人を支えていく人材の発掘、育成は最重要課題の一つです。そのためには、求人活動の積極的展開や適材適所の人員配置はもとより、管理職選考のあり方等人事制度の見直しを進めてまいりたいと考えております。

新任総務部長挨拶



事務局
総務部長 中島 昭

四月一日付で総務部長を命ぜられました。佐々木前部長の縦横無尽の活躍ぶりを拝見していましたので、あの域に達するにはまだまだ時が必要です。今しばらくのご容赦をお願いいたします。

さて、「福祉は人」が私の持論です。同援のすべての職員が、将来に希望を持つて活き活ける職場作りの今後とも、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

そのために、情報はできる限りオープンにすること、組織の風通しを

よくすること、誰もがきちんとものと言える職場にすること、職員の皆様からよく「聞く」ことを心がけてまいります。

また、今後の法人を支えていく人材の発掘、育成は最重要課題の一つです。そのためには、求人活動の積極的展開や適材適所の人員配置はもとより、管理職選考のあり方等人事制度の見直しを進めてまいりたいと考えております。



同 援 だ より

新任施設長挨拶



ゆたか苑
園長田代秀之

特養を取り巻く環境は、介護保険制度施行と共に、その運営から利用者サービスの質に大きく影響をしていることは周知のところです。厚生労働省の推進する高齢者福祉のあり方を念頭に置き、施設運営を実施したいと考えております。

特に今年度は、地域拠点施設としての役割を最重要課題と捉えています。地域の方が安心安全に生活できるセーフティーネットとして施設ができるることを実践します。

例えば、「孤独死」が社会問題になつておりますが、地元町会や高齢者福祉課と連携した安否確認を、先般のオングルマン会議と町会の総会でも提案させていただいたところです。

施設の職員による二十四時間体制の巡視は難しいかも知れません。しかし「在宅ニーズへの包括的な連

携」として施設が地域のために役立てると考えております。

また、地域における施設の役割は、災害時の拠点としての責務があることも明確なところです。日頃より地域の皆様との関係を深め、災害時には双方向の支援連携を行う地域協定を締結しております。今後発生が想定される大規模災害に対し、基本となる行動計画を再確認し非常時に備えてまいります。

ゆたか苑のモットーである「寄り添う介護」は、入居者はもとより、地域のお一人おひとりの思いを大切にし、その方らしくイキイキと過ごしていただけ利用者本位のサービスです。いつの時代にあっても変わらない「笑顔が絶えない温かい施設」として、職員と共に施設運営に努める所存であります。

最後に、同援入職から十三年、この間、素晴らしい先輩と後輩達に恵まれ、利用者本位の質の高いサービス実践につなげられたことに心から感謝しております。そして園長となつた今、同援の歴史と誇りを守り、基本理念・方針に沿つた施設マネジメントに全力で取り組む覚悟でおります。

今後ともご指導ご鞭撻くださいますようお願いし、新任の挨拶とさせていただきます。

新任副施設長挨拶



フジホーム
副園長小金沢康哲

この四月より、フジホーム副園長となりました。私は、介護職員として業務していた時期が長く、現在、兼務させていただいている生活相談員の経験も今年で二年目という若輩者です。今年度、介護保険法が改正となり、その対応に追われる日々ですが、園長のご指導をいただきつつ、全職員、利用者やご家族、施設をサポートしていただいている多くの方々に支えられ感謝する毎日です。

今まででは当然、利用者の方々や介護職員と直接、接する機会の方が多かつたのですが、現在は部署の長との連絡相談に終始し、直接、利用者の方々と接する機会が減つてしましました。施設のメインテーマである「寄り添う介護」を目標に掲げ、この目標に沿った介護が出来るように現場に携わる職員を支えていくこと、少しでも寄り添う介護がしやすい環境を整えること

が、今の自分の役割・命題だと思つております。

昨今よく思うのは、自分が介護職員として利用者と接していた時、介護という仕事に没頭出来ていたのは、そういう先輩や上司の方々の配慮や努力があつたからだと思ひます。また、フジホームは、以前から介護職員が様々な企画などを提案すると、利用者に不利益が生じない限り、「よし、やってみろ」と大画面を進行できたり、意欲のある職員には物事にチャレンジさせてくれる、職員の自己実現への可能性を大きく持たせてくれる施設でもありました。

私自身も当時を振り返ってみると、「未熟な私によく許可を出してくれたなあ」という思い出や、経験も数多くあります。ただ、今の自分があるのは、そうした企画に挑戦することによって自分の力量の無さや計画の見通しの甘さなどに気づき、失敗や反省を繰り返す私を助け、育てて下さった諸先輩方のおかげであります。

まだまだ、力量の無さを痛感する毎日ではありますが、介護の最前線で働く職員たちの、縁の下を支えられるような役割ができるよう精進していきたいと思います。

平成23年度 事業報告について

平成24年5月23日開催された理事会・評議員会において「平成23年度事業報告」並びに「平成23年度決算報告」が承認されましたのでお知らせいたします。

なお、本会の事業報告並びに決算書は頁数が相当数に及びますので、その要旨のみを7頁から12頁のとおり紙上掲載いたします。

法人事務局に「平成23年度事業報告・決算報告書」がございますので、詳細をお知りになりたい方は、事前にお電話で来訪日をお知らせいただければ閲覧していただけます。

平成23年度 事 業 報 告

平成23年度の日本経済は、依然としてデフレが改善されず東日本大震災の影響も加わり、先行き不透明な状態が続きました。

国においては、社会保障と税の一体改革の素案がまとまり、関連法案が国会に提案されているところです。

当法人においては、引き続き利用者サービスの一層の充実を図るため施設運営に万全を期すとともに、人材の確保及び育成に努めました。また、震災に関する対応も行いました。

まず施設運営についてですが、利用者への個別計画に基づいた適切なサービスを提供するとともに、老朽化した設備の更新や災害時用の備蓄を増やすなど利用者の安心安全を確保するための対策を推進いたしました。

更に、新たな(仮称)原町高齢者複合施設の建設及び昭和郷第二保育園の改築に着手いたしました。

次に、人材の確保・育成についてですが、今年度も新規学卒者の計画的な採用を進めるとともに、新規職員から施設長まで階層別に法人研修を実施したほか、各支援系グループにおける分野別の研修を行い、職員のスキルアップに繋げました。

震災関連では、被災地へ職員を合計30名、延べ210日派遣し被災した福祉施設の支援に取り組んだところです。また、夏の電力不足が喧伝される中、利用者サービスを低下させることなく前年比で20%を超える節電を実施いたしました。

最後に昭島病院の運営についてですが、引き続き救急患者の受入増や地域医療連携の拡充など、地域の中核病院としての役割を果たして参りました。また、今年度も収支の改善に努めた結果、引き続き黒字決算となりました。

この一年、施設の利用者ならびにご家族の皆様をはじめ、関係者、地域の皆様から様々なご支援、ご協力を賜りましたことを心から感謝いたします。

同 拠 だ め り

平成23年度 施設利用状況報告

平成24年3月31日現在

注1 定員については母子生活支援施設は世帯数で他施設は人数。

注2 地域包括支援センターは、相談件数を記載。件数は、相談内容により重複している。なお、利用者数の合計には算入していない。

同 権 だ よ り

| 貸借対照表 |

平成24年3月31日現在

(単位:千円)

勘定科目	合計	社会福祉事業	公益事業	収益事業
資産の部				
流動資産	4,543,287	4,336,377	66,049	140,861
固定資産	16,156,227	15,879,829	1,485	256,913
(基本財産)	8,625,615	8,625,615	0	0
(その他の固定資産)	7,530,612	7,272,214	1,485	256,913
繰延資産	39,834	39,834	0	0
資産の部合計	20,739,348	20,274,040	67,534	397,774
負債の部				
流動資産	1,405,105	1,324,669	14,852	65,584
固定負債	2,847,493	2,807,741	0	39,752
負債の部合計	4,252,598	4,132,410	14,852	105,336
純資産(資本)の部				
基本金	82,664	82,664	0	0
資本金	915,070	908,836	0	6,234
国庫補助金等特別積立金	3,728,457	3,728,457	0	0
その他の積立金	6,079,227	6,064,427	0	14,800
次期繰越活動収支差額	5,681,332	5,562,260	45,438	73,634
(うち当期活動収支差額)	543,939	528,000	11,854	4,085
純資産(資本)の部合計	16,486,750	16,346,644	45,438	94,668
負債及び純資産の部合計	20,739,348	20,479,054	60,290	200,004

同 権 だ よ り

| 事業活動収支計算書 |

(自)平成23年4月1日 (至)平成24年3月31日

(単位:千円)

勘定科目		合計	社会福祉事業	公益事業	収益事業
事業活動収支	事業活動収入(1)	10,904,638	10,417,264	237,738	249,636
	事業活動支出(2)	10,363,836	9,918,513	217,507	227,816
	事業活動収支差額 (3)=(1)-(2)	540,802	498,751	20,231	21,820
事業活動外収支	事業活動外収入(4)	614,709	594,138	8,039	12,532
	事業活動外支出(5)	584,911	543,200	14,532	27,179
	事業活動外収支差額 (6)=(4)-(5)	29,798	50,938	▲6,493	▲14,647
経常収支差額 (7)=(3)+(6)		570,600	549,689	13,738	7,173
就労支援事業収支	就労支援事業収入(8)	36,513	36,513	0	0
	就労支援事業支出(9)	36,792	36,792	0	0
	就労支援事業収支差額 (10)=(8)-(9)	▲279	▲279	0	0
特別収支	特別収入(11)	379,735	379,565	0	170
	特別支出(12)	402,887	400,972	1,884	31
	特別収支差額 (13)=(11)-(12)	▲23,152	▲21,407	▲1,884	139
税引前当期活動収支差額 (14)=(7)+(10)+(13)		547,169	528,003	11,854	7,312
法人税、住民税及び事業税負担額 (15)		3,227	0	0	3,227
当期活動収支差額 (16)=(14)-(15)		543,942	528,003	11,854	4,085
繰越活動収支	前期繰越活動収支差額 (17)	5,361,916	5,258,783	33,584	69,549
	当期末繰越活動収支差額 (18)=(16)+(17)	5,905,858	5,786,786	45,438	73,634
	基本金取崩額(19)	0	0	0	0
	基本金組入額(20)	0	0	0	0
	その他の積立金取崩額(21)	54,000	54,000	0	0
	その他の積立金積立額(22)	278,526	278,526	0	0
	次期繰越活動収支差額 (23)=(18)+(19)-(20)+(21)-(22)	5,681,332	5,562,260	45,438	73,634

同 権 だ よ り

| 資金収支計算書 |

(自)平成23年4月1日 (至)平成24年3月31日

(単位:千円)

勘定科目		合計	社会福祉事業	公益事業	収益事業
経常活動収支	経常活動収入(1)	7,370,579	7,160,693	209,886	0
	経常活動支出(2)	6,692,927	6,498,227	194,700	0
	経常活動収支差額 (3)=(1)-(2)	677,652	662,466	15,186	0
就労支援事業収支	就労支援事業収入(4)	36,513	36,513	0	0
	就労支援事業支出(5)	36,233	36,233	0	0
	就労支援事業収支差額 (6)=(4)-(5)	280	280	0	0
施設整備等収支	施設整備等収入(7)	254,595	254,595	0	0
	施設整備等支出(8)	529,156	529,156	0	0
	施設整備等収支差額 (9)=(7)-(8)	▲ 274,561	▲ 274,561	0	0
財務活動収支	財務活動収入計(10)	196,004	196,004	0	0
	財務活動支出計(11)	482,429	480,545	1,884	0
	財務活動収支差額 (12)=(10)-(11)	▲ 286,425	▲ 284,541	▲ 1,884	0
予備費(13)		0	0	0	0
当期資金収支差額合計 (14)=(3)+(6)-(9)+(12)-(13)		116,946	103,644	13,302	0
前期末支払資金残高(15)		2,587,149	2,549,724	37,425	0
当期末支払資金残高(14)+(15)		2,704,095	2,653,368	50,727	0

財 産 目 錄

平成24年3月31日現在

社会福祉法人 恩賜 東京都同胞援護会

(単位:千円)

I 資 産 の 部		¥ 20,739,348
(1) 流 動 資 産	¥ 4,543,287	
(2) 固 定 資 産	¥ 16,156,227	
ア.基本財産	¥ 8,625,615	
イ.その他の固定資産	¥ 7,530,612	
(3) 繰 延 資 産	¥ 39,834	
II 負 債 の 部		¥ 4,252,598
(1) 流 動 負 債	¥ 1,405,105	
(2) 固 定 負 債	¥ 2,847,493	
III 差 引 純 資 産		¥ 16,486,750

監 査 報 告 書

平成24年5月11日

社会福祉法人 恩賜 東京都同胞援護会

理事長 牧 野 洋 一 殿

社会福祉法人 恩賜 東京都同胞援護会

監 事 五 十 巖 力 平

監 事 鈴 木 道 生

私たち監事は、平成23年4月1日から平成24年3月31までの平成23年度の事業年度に関して、理事の業務執行の状況及び社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会の財産の状況について監査をいたしました。その結果につき以下のとおり報告します。

1 監査の方法の概要

監事は、理事会その他重要な会議に出席するほか、理事等からその職務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、各施設における業務及び財産の状況を調査しました。また、会計帳簿等の調査を行い、計算書類及び事業報告書につき検討いたしました。

2 監査の結果

- (1)会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書及び財産目録の記載と合致しているものと認めます。
- (2)貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書及び財産目録は、法令及び定款に従い法人の財産、事業活動及び資金収支の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3)事業活動報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を示しているものと認めます。
- (4)理事の職務遂行に関する不整の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

以上

後 援 会

ご 支 援 あり が と う ござ い ま し た
(敬称略順不同)

◇ 梅 谷 静 子 ◇ 重 松 敏 男 ◇ 平 山 晴 子 ◇
昭 岡 市 民 生 委 員 児 童 委 員 協 議 会

※「同援だよりに名簿掲載希望欄」
へ〇印をご記入頂いた方のみ掲載してあります。

◇ 大 西 陽 ◇ 佐 々 木 嘉 子 ◇ 佐 々 木 涼 ◇
鮫 島 泰 江 ◇ 監 物 孝 司 ◇ 杉 谷 秀 樹 ◇ 永
井 允 子 ◇ 中 村 魚 店 ◇ 中 村 浩 二 ◇ 名 久
井 健 治 ◇ 福 家 謙 介 ◇ (有) 新 井 精 肉 店 ◇
(株) 石 塚 家 具 店 ◇ (有) イ ナ ダ オ フ イ ス サ
ブ ラ イ ◇ 浦 野 工 業 (株) ◇ 浦 野 静 夫 ◇
エ コ ア (株) ◇ (有) 海 老 山 ◇ (株) 奥 野 設 計
房 サ ー ビ ス (株) ◇ 居 宅 介 護 サ ー ビ 斯 エ
太 郎 ◇ ク リ エ ー テ イ ブ カ ミ ャ (株) ◇ 信
濃 化 学 工 業 (株) ◇ 昭 和 の 森 工 リ ア サ
ビ ス (株) ◇ 代 表 取 締 役 田 村 春 生
の く に (株) 東 京 営 業 所 ◇ ヘ ル シ ー フ イ
フ リ ー ド サ ー ビ ス (株) ◇ 芦 田 修 ◇ 日 本 工
ド (株) ◇ (株) 三 ツ 矢 ◇ 安 江 設 计 研 究 所 ◇
横 田 屋 米 店 ◇ 吉 村 電 気 工 事 (株)



リハビリを支える 応援のチカラ

昭島病院 理学療法士 奈蔵 功宗

生活の場にいる応援団

みなさん、こんにちは。昭島病院で理学療法士をしている奈蔵です。

さて、今年は四年に一度のスポーツの祭典、オリンピックが開催されます。

みなさんは、どの競技に注目されていますか？ 水泳ですか？ マラソンですか？ なでしこジャパンの活躍を楽し

みにされている方もいらっしゃることでしよう。

限界を超えて頑張るアスリートの姿には、胸が熱くなりますね。

ところで、スポーツに欠かせないのが、応援団の存在です。

野球も、バレー、ボーラーも、サッカーも、テニスも、水泳も。どんな競技にも、応援団はつきものです。

そして、試合後のインタビューで、アスリートが必ず口にするのがこの台詞：

「みんなの応援にチカラをもらいました」「応援してくださったみなさんのおかげで、今日は勝つことができました」

そう、どんなに強い精神力を持つたアスリートも、活躍の裏には、ファンの応援という後押しがあるのですね。この応援、実はリハビリにおいても、大きなチカラになるのです。



応援のチカラ

これはリハビリだけでなく、子育てにおいても、おなじことがいえるのではないか

でしょうか。子どもさんが、何か目標に向かって頑張っている時。何か新しいことができるようになった時。

そんな時に、周囲の人々が注目してくれて、褒めてくれて、一緒に喜んでくれると、達成感や充実感は何倍にも膨らむはずです。

そこで大切なのは、生活の場にいらっしゃる方々です。

看護師さん、介護士さん、ご家族、ご友人、お医者さん、薬剤師さん、ソーシャルワーカーさん、ケアマネージャーさん、事務の方、お掃除のスタッフの方…。挙げればきりがないですが、そうした生活の場にいらっしゃる方々からの応援が、非常に大きなチカラになるのです。

応援といつても、「頑張れ頑張れ」と、激励する必要はありません。

注目や称賛、そして喜びの共有こそが、大きなチカラになるのです。

「いつも頑張っていますね」「いつも頑張りましたね」

「〇〇ができるようになったんですね」「日頃の努力の成果ですね」

こんな何気ない声かけが、大きなチカラになるのです。

みんなさんの声援が、大きな大きなチカラになるのです。

身近な方への応援を

オリンピックが終わってしまっても、声援を送る相手は、身近にまだまだたくさんいます。

リハビリに取り組んでいる方、何かを頑張っている方、目標に向かって頑張っている方、そんな方々に、声援を送つてみましよう。きっとその声援は、みんなが考えている以上に、大きな大きなチカラになるはずですから。



応援にチカラをもらえるのは、もちろん、我々もおなじです。

今、子育てを頑張っている方、新しい資格の勉強を頑張っている方、仕事と家事の両立を頑張っている方、親御さんの介護を頑張っている方…

「本当に頑張っているね」「こんなに頑張ったんだね」「こんな風に声をかけてもらえた」と、どんなにくたびれていても、またチカラが湧いてくるような気がしませんか？

「本当に頑張っているね」「こんなに頑張ったんだね」「こんな風に声をかけてもらえた」と、どんなにくたびれていても、またチカラが湧いてくるような気がしませんか？



し せ つ 通 信

◆ 双葉園 ◆

昨年六月にグループホームくすのきが開設し、約一年が経ちました。双葉園から子ども六名、職員四名で一軒家に引っ越し、生活単位は小規模になりましたが、子ども六名ともなると元気いっぱい大家族のような雰囲気です。

新しい環境での生活は、子どもにも職員にも、成長のチャンスを与えてくれています。くすのきでは「子どもの主体性」を大切にし、生活の流れや約束事など二つひとつのことを子どもたちと話し合いながら、一緒につくり上げてきました。今では、ここでの生活

も板に付き、職員が口を出さずとも、自分で考え自分で動く力がついてきて、日々彼らの成長を感じています。誕生日やクリスマスなどの行事は、双葉園と比べるとささやかな内容なので、子どもたちにとつては物足りないかも知れません。しかし、料理や準備からみんなでわいわいと楽しむ和やかな空気を肌で感じてもらえばと思っています。

子どもとの関係がより密になるこの環境では、子どもの頑張りや素敵などころがたくさん見えてくる分、ぶつかることもたくさんあります。「彼らにとって本当に必要なサポートがでているのだろうか」と自問自答する毎日ですが、彼らが立派に巣立つていいくことを願い、とともに成長していきたいと思っています。

(根本 記)

◆ 昭和郷保育園 ◆

昭和郷保育園では端午の節句に毎年手作りのこいのぼりを作成し、園庭に泳がせてお祝いをしています。今年の二歳児クラスのこいのぼりは、おにぎりの模様のこいのぼりでした。一見すると珍しい模様に思われるかもしれないが、それにはこのような経緯がありました。

入園・進級したての四月当初、おにぎりの形をした木製玩具に興味を示したクラスの子ども達。保育士の声かけで自分の食べたいおにぎりの具を発表すると、そこからおに

も板に付き、職員が口を出さずとも、自分で考え自分で動く力がついてきて、日々彼らの成長を感じています。誕生日やクリスマスなどの行事は、双葉園と比べるとささやかな内容なので、子どもたちにとつては物足りないかも知れません。しかし、料理や準備からみんなでわいわいと楽しむ和やかな空気を肌で感じてもらえばと思っています。

子どもとの関係がより密になるこの環境では、子どもの頑張りや素敵などころがたくさん見えてくる分、ぶつかることもたくさんあります。「彼らにとって本当に必要なサポートがでているのだろうか」と自問自答する毎日ですが、彼らが立派に巣立つていいくことを願い、とともに成長していきたいと思っています。

(根本 記)

昭和郷保育園では端午の節句に毎年手作りのこいのぼりを作成し、園庭に泳がせてお祝いをしています。今年の二歳児クラスのこいのぼりは、おにぎりの模様のこいのぼりでした。一見すると珍しい模様に思われるかもしれないが、それにはこのような経緯がありました。

入園・進級したての四月当初、おにぎりの形をした木製玩具に興味を示したクラスの子ども達。保育士の声かけで自分の食べたいおにぎりの具を発表すると、そこからおに

ぎりに対する興味が増していきました。その後は、おにぎりが登場する絵本もお気に入りの一冊となり、何度も飽きることなく『おにぎり見たよー』もう一回読んで!』とリクエストをしたり、読み聞かせが終わった後は、思い思いに食べる真似をして楽しむ姿が見られました。そんな子ども達を見て、今の子ども達の興味を活かして今年のこいのぼりの模様をおにぎりにしてみてはどうか? という案が担任職員の中から挙がりました。

子ども達一人ひとりに好きな具をなところがたくさん見えてくる分、ぶつかることもたくさんあります。「彼らにとって本当に必要なサポートがでているのだろうか」と自問自答する毎日ですが、彼らが立派に巣立つていいくことを願い、とともに成長していきたいと思っています。

こいのぼりの製作前には、クラスでおにぎり作りの教育活動を行いました。子ども達が実際に自分の手で握ることで、ご飯の温かさを感じたり、自分で作ったものを食べる喜びを感じているようで、子ども達の興味をより一層深める活動となりました。

個性豊かなそれぞれのおにぎりが出来上がり、園庭にこいのぼりを泳がせる日がきました。『おにぎりこいのぼり頑張れ!』という子ども達の賑やかな声を受けて、どのクラスよりも元気にはためくその姿は子ども達の健やかな成長を願っているようでした。

クラスの子ども達はもちろん、保

同 権 佛 壇

昭島荘 道句会

軒下で

アクロバットの 燕かな

吉

博

莊の庭

吾

桜咲き

はらはら散つて 荘かな

吾

花冷えに

心の彼が 消えていく

子

朝食の

磯の香りや 浅蜊汁

雄

目ざめをり

きぬゑ

雄

朝のまど

轟きききて

雄

朝たより

小雨に濡れて 花満開

雄

帰る道や

通院の 紅枝垂

雄

美知子

(にしだれ)

雄



護者の方や他クラスの子ども達からもとても好評だった、おにぎりこいのぼり。きっかけは子ども達の小さな興味からでしたが、保育士の働きかけや保育のアイディアが幾つも積み重なり、このように広がっていきました。この流れを受け、「ありがとうの日」もおにぎりの形にラッピングした手作り布巾をプレゼントすることになりました。

(吉永 記)

今回の行事や活動は、子ども達にとって食育活動にもつながる魅力的な活動となりました。これをきっかけに食べ物への興味がさらに広がり、健全な心身を培い豊かな人間性をはぐくむことができるよう、今後も取り組んでいきたいと思います。

外部の方とのふれあいは外出する機会が少ない利用者にとって大きな刺激となります。職員とのかかわりだけでは慣れ親しんだ家族と同じで、いわば見慣れた顔の中で生活を過ごしていますが、外から来た人となると少し緊張し背筋が伸び、シャキッとされるようです。

そんな利用者の様々な表情を見て、喜びや潤いの一部のお手伝いができるいことに私たち職員も嬉しく、更に人間としての深い魅力を感じます。そして人が人を支援することの中でそう

ニユーフジホームでは、多くのボランティアの皆様のご協力もあり、週四回様々な娯楽活動（レクリエーション）が行われています。近隣の保育園児も季節ごとに来園し、一緒に歌を歌って楽しいひと時を過ごしています。子どもたちの歌う姿を自分の孫や子どもに重ねているのか目を細めて眺めています。やはり子どもの持っているパワーは輝きに満ちていて、利用者にとってはとても刺激的であり、喜びや感動を与えてくれています。

我がニユーフジホームは開設三十二年を迎える施設ですが、地域の皆様のご協力を得ながら、スタッフのハートで利用者の生活を支えられる施設であります。私たち職員もこの喜びを仕事の動力にするだけでなく、福祉を目指して入職してきた職員やこれから福祉の現場を目指す学生などにも還元し、地域の福祉を支えられる施設であります。

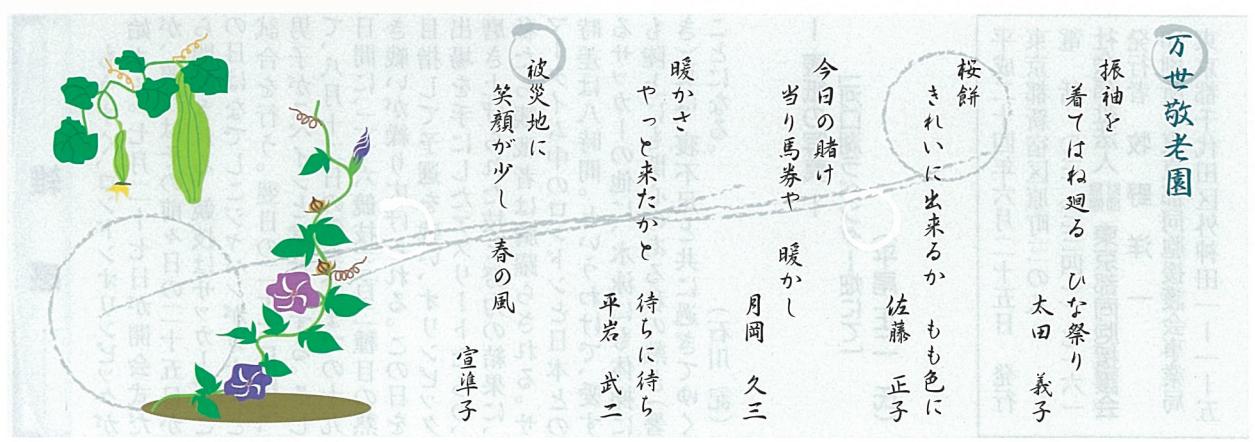
（齋藤 記）



◆ニユーフジホーム◆

いつた一人ひとりの個性を感じて、共感し、尊重することができることに繋がると思いました。

万世敬老園



同 拠 だ よ り

祝表彰・感謝状受賞者

多年の功績とご協力に対し、次の方
が表彰されました。

おめでとうございます。

◎ 社団法人東京都民間保育園協会
永年勤続表彰

みなと保育園 保育士 嶋 いづみ
さいわい福祉センター 生活支援員 高橋千代子

◎ 全国社会福祉協議会会长賞

昭島荘 介護職員 綿貫 亮一
小茂根福祉園 生活支援員 池田 聰

資 格 取 得 の 紹 介

左記の方々が資格を取得しました。
日頃の業務に活かしご活躍を期待
します。

【社会福祉士】

万世敬老園 生活相談員 植本 洋平
指定居宅介護支援事業所 介護支援専門員 渡邊 達雄

【介護福祉士】

万世敬老園 介護職員 伊藤 恵
ひかり苑 介護職員 近藤 陽子

フジホーム

介護職員 小山 明香
介護職員 伊藤 恵

フジデイホーム

介護職員 砂田富士夫
介護職員 河野 年子

ニーフフジホーム 介護職員 真野 学
介護職員 江東 圭子

ゆたか苑 介護職員 小原マリアンヌ
介護職員 木邨 ゆか

ひかり苑 介護職員 小原マリアンヌ
介護職員 木邨 ゆか

ひかり苑 介護職員 根田 亜希
支援員 林 悟
支援員 幸田 春美

昭島荘 介護職員 綿貫 亮一
介護職員 浅沼 秀子

小茂根福祉園 生活支援員 池田 聰
企画部 事務員 松田 明徳

万世敬老園 介護職員 齋藤絵理子
介護職員 長谷川美加

万世敬老園 介護職員 植本 洋平
介護支援専門員 渡邊 達雄

万世敬老園 介護職員 伊藤 恵
ひかり苑 介護職員 近藤 陽子

万世敬老園 介護職員 小山 明香
介護職員 伊藤 恵

万世敬老園 介護職員 砂田富士夫
介護職員 河野 年子

万世敬老園 介護職員 真野 学
介護職員 江東 圭子

万世敬老園 介護職員 小原マリアンヌ
介護職員 木邨 ゆか

お知らせ

同援各施設では左記の予定でバザー
や夏まつり等を開催致します。品物のご
寄附ご協力等よろしくお願ひ致します。

○サンライズ青山 地域交流夏祭り
七月十四日(土)十一時~

○ゆたか苑 夕涼み会
七月十五日(日)十七時~

○つつじが丘保育園夏祭り・バザー
七月二十日(金)十五時~

○むさしの保育園方南分園 バザー
十月二十七日(土)十一時半~

○同援みどり保育園 グリーンバザー
十月二十七日(土)十一時~

○昭和郷フェスティバル
十月三日(土)十時~

○みなど保育園 バザー
十月二十七日(土)十一時半~

○小茂根福祉園 こもねまつり
十月十日(土)十一時~

○サンホーム納涼祭
七月二十七日(金)十八時~

○昭和郷納涼祭
七月二十六日(木)十八時~

○同援さくら保育園 バザー
十月十日(土)十二時~

○さくらんぼ祭り
十月十八日(日)十二時半~

○小茂根福祉園 こもねフェスタ
七月二十八日(土)十五時~

○さやま園納涼祭
八月一日(木)十七時~

○さいわい福祉センター夕涼み会参加
八月四日(土)十七時~

○ひかり苑・サンホーム合同
八月十一日(土)十七時~

○さやま園祭
九月三十日(日)十時~

○ゆたか苑 地域交流バザール
十月二十日(土)十時~

○大山保育園 ぽかぽかバザール
十月二十七日(土)十一時半~

もうすぐ、ロンドンオリンピックが始まる。七月二十七日が開会式だが、競技はその前々日の二十五日から開始される。競技はサッカーで、この日はなでしこジャパンがカナダと試合を行う。翌日の二十六日には、男子がスペインと試合をする。そして、八月十二日の閉会式までの十九日間に、「十六競技三百二種目の熱き戦いが繰り広げられる。この日を目指して予選を戦い、オリンピック出場を手にしたアスリートたちの、磨き上げられた技と努力の結果に、私たち観戦者は胸躍らされる。サマータイム中のロンロンと日本との時差は八時間。というわけで、愛するサッカーの他に、水泳にも体操にも陸上にも関心のある私の熱き(暑き)夏は、寝不足と共に過ぎてゆくことになる。(石川記)

雑感

一 表紙の写真

「河口湖ラベンダー畑にて」

(平尾正一 氏)

平成二十四年六月二十五日	発行
東京都新宿区原町三の八	
電話 ○三(三三四一)七二六一	
社会福祉法人 <small>恩賜財團</small> 東京都同胞援護会	
発行者 牧野洋一	
印刷所 東京都同胞援護会事業局	
東京都千代田区外神田一之一五	